

展示室1 小特集：イギリスの彫刻家たち

ヘンリー・ムーア (1898-1986) とバーバラ・ヘップワース (1903-1975) は、20世紀のイギリスを代表する彫刻家です。ふたりは、1920年にリーズ芸術大学で出会い、ともにセヴン・アンド・ファイヴ・ソサイエティやユニット・ワンといった気鋭の芸術家グループに参加し、お互いに影響を与える存在でした。

そのユーモラスなかたちから「じゃが芋と割り箸の彫刻」と評されたケネス・アーミティージ (1916-2002) もまたムーアやヘップワースと同じリーズ芸術大学で学んだ彫刻家の一人です。彼は彫刻のみならず、版画や素描においても優れた作品を残しています。

ロンドンに生まれ、現在も活動を続けているアントニー・ゴームリー (1950-) は、自らの身体を型取った人体彫刻で知られ、現代のイギリス彫刻界をリードしています。

作者名	作品名	制作年	技法・材質	
ケネス・アーミティージ	孤独な木 (白い幹) No.54	1975	鉛筆、クレヨン、コラージュ・紙	(株)カサハラ画廊寄贈
ケネス・アーミティージ	リッチモンド・オーク	1975	エッチング・紙	(株)カサハラ画廊寄贈
ケネス・アーミティージ	リッチモンド・オーク (二本の木)	1977	エッチング・紙	(株)カサハラ画廊寄贈
ケネス・アーミティージ	立っている人物	1971	フォトエッチング・紙	(株)カサハラ画廊寄贈
ケネス・アーミティージ	走っている少女と手すり	1974	エッチング・紙	(株)カサハラ画廊寄贈
ケネス・アーミティージ	走っているグループ (a)	1973	鉛筆、グワッシュ、コラージュ・紙	(株)カサハラ画廊寄贈
ケネス・アーミティージ	二人の人物	1971	木炭、グワッシュ、コラージュ・紙	(株)カサハラ画廊寄贈
デーム・バーバラ・ヘップワース	ふたつのフォルム、青	1958	油彩・ボード	
デーム・バーバラ・ヘップワース	オルフェウス (マケット2)	1956	真鍮、糸	
デーム・バーバラ・ヘップワース	石柱 (パヴァーヌ)	1953	油彩・パネル	
ヘンリー・ムーア	『ストーン・ヘンジ』より 「バランスを保つ楣石」「空にそびえる」	1974	リトグラフ・紙/ポートフォリオ	
ヘンリー・ムーア	座る人体：スカート	1980	ブロンズ	
ヘンリー・ムーア	『スカルプチャー・アイデア』 V	1980	エッチング、アクアチント・紙/ポートフォリオ (7点組)	
ヘンリー・ムーア	『スカルプチャー・アイデア』 VI	1980	エッチング、アクアチント・紙/ポートフォリオ (7点組)	
アントニー・ゴームリー	領域 XIII	2000	ステンレス・スチール棒	
アントニー・ゴームリー	量子雲 XXIII	2000	ステンレス・スチール棒	
アントニー・ゴームリー	量子雲	2000	アニリン塗料・紙 (3枚組)	
サー・ジョシュア・レイノルズ	エグリントン伯爵夫人、ジェーンの肖像	1777	油彩・キャンバス	
サー・エドワード・コラー・バーン＝ジョーンズ	フローラ	1868-84	油彩・キャンバス	

展示室2 洋画上洛！—京都洋画と浅井忠

明治35(1902)年、フランス帰りの洋画家 浅井忠は、東京美術学校 (現 東京藝術大学) 教授の職を辞し、京都高等工芸学校 (現 京都工芸繊維大学) 教授として京都に移り住みました。浅井の入洛により、京都洋画壇は大いに活気づきます。浅井は京都にあった洋画塾をまとめあげ、自邸での聖護院洋画研究所の開設を経て、明治39(1906)年に関西美術院を開院します。関西美術院では、初代院長の浅井のもと、伊藤快彦と都鳥英喜、鹿子木孟郎が教授となって、安井曾太郎、梅原龍三郎など日本の次代を担う若き洋画家を指導しました。

ここでは、浅井上洛前夜の京都洋画の黎明期から関西美術院ゆかりの画家の戦前までの活躍に焦点を当て、日本近代洋画史に残るその足跡を辿ります。

作者名	作品名	制作年	技法・材質
山内 愚仙	風景		水彩・紙
伊藤 快彦	夏の静物		油彩・板
伊藤 快彦	子供像		油彩・キャンバス
浅井 忠	収穫	1893(明治26)	油彩・紙、板
浅井 忠	少女の顔	1878(明治11)	木炭・紙
浅井 忠	足尾村	1884(明治17)	インク・紙
鹿子木 孟郎	水車小屋		水彩・紙
鹿子木 孟郎	綾瀬		水彩・紙
小川 千甕	サン・ドニ風景	1913(大正2)	水彩・紙
梅原 龍三郎	静物		油彩・キャンバス
安井 曾太郎	初秋の北京	1944(昭和19)	油彩・キャンバス
安井 曾太郎	早春		水彩・紙
安井 曾太郎	公園風景	1928(昭和3)	水彩・紙
安井 曾太郎	バルコニーより		鉛筆・紙
榊原 一廣	塔の見える風景	1924(大正13)	油彩・キャンバス
斎藤 与里	海辺秋景	1937(昭和12)頃	油彩・キャンバス
石井 柏亭	ピサ	1911(明治44)	水彩・紙
石井 柏亭	江村(中川奥戸)	1936(昭和11)	水彩・紙
間部 時雄	洛北の秋	1907(明治40)	油彩・板
間部 時雄	カーニユにて	1923(大正12)	油彩・スケッチボード
前川 千帆	『書窓版画帖十連聚 其四 新野外小品』(アオイ書房)より「高原」	1942(昭和17)	木版・紙/本
前川 千帆	『版芸術』第4号(白と黒社)より「小品」	1932(昭和7)	木版・紙/本
河合 新蔵	ノウゼンカズラのある宿場		水彩・紙
河合 新蔵	武州五日市の雪景		水彩・紙
里見 勝蔵	軍人	1927(昭和2)	油彩・キャンバス
林 重義	顔(自画像)		油彩・キャンバスボード 武田光司コレクション寄贈

展示室3 日本の前衛・画家の試み

昭和前期、シュルレアリスムや抽象絵画という海外で20世紀に誕生した新しい芸術運動や絵画表現が日本に紹介されました。若い芸術家たちは、それらに敏感に反応して、次々に新しい実験と創造を繰り返しました。

戦後の日本美術は、戦前から活躍していた彼らを中心に再出発します。本格的に国際化の時代になり、表現方法の上でもさまざまな試みが行われました。1950年代後半には日本においてアンフォルメル旋風が巻き起こり、その力強い特異な表現は注目を集めました。

作者名	作品名	制作年	技法・材質	
瑛九	構図	1957(昭和32)	吹付・合板	武田光司コレクション寄贈
菅井 汲	黒	1959(昭和34)	油彩・キャンバス	
佐藤 昭一	作品61	1961(昭和36)	油彩、パテ・キャンバス	佐藤昭一氏寄贈
土橋 醇	タルヌ峡谷のコンポジション	1957(昭和32)	油彩・キャンバス	
白木 正一	予感	1955(昭和30)	油彩・キャンバス	
早瀬 龍江	營	1940(昭和15)	油彩・キャンバス	
鎌田 正蔵	白日夢	1938(昭和13)	油彩・キャンバス	鎌田正蔵氏寄贈
芳賀 忠行	虚構の風景—城	1974(昭和49)	油彩・キャンバス	
杉全 直	ふたりの肖像	1949(昭和24)	油彩・キャンバス	
村井 正誠	いそぐ人	1956(昭和31)	油彩・キャンバス	

作者名	作品名	制作年	技法・材質
難波田 龍起	建物の構成	1954(昭和29)	油彩・キャンバス
堂本 尚郎	1962-18(二元的なアンサンブル)	1962(昭和37)	油彩・キャンバス
勝呂 忠	渾沌	1954(昭和29)	油彩・キャンバス
尾藤 豊	川口鑄物	1954(昭和29)	油彩・キャンバス
佐藤 昭一	コンポジション	1959(昭和34)	油彩・キャンバス
田淵 安一	ラ・セーヴ(樹の精)	1957(昭和32)	油彩・キャンバス

展示室4-① 版画と福島

福島県出身の版画家には、渡辺光徳(須賀川市、1887-1945)、斎藤清(会津坂下町、1907-1997)、福田利秋(白河市、1911-2000)、岩谷徹(郡山市、1936-)、安部直人(耶麻郡塩川町、1952-)らがいます。郡山ゆかりの画家、土橋醇(1910-1978)は油彩画の制作と並行して、版画でも独自の抽象表現を展開しました。

また、福島其自然や文化に魅せられて、森田恒友(1881-1933)や石井柏亭(1882-1958)など画壇を牽引する画家たちが滞在、多くの作品を遺すとともに、当地の美術活動に影響を与えました。福島が生んだ版画家の到達した表現や、福島固有の気候風土が呼び集めた作家たちによる風景描写をとおして、版画と福島の風趣に富んだ魅力をご紹介します。

作者名	作品名	制作年	技法・材質
山本 芳翠	磐梯山噴火真図	1888(明治21)	木口木版・紙
森田 恒友	『日本風景版画 第二集 会津之部』(日本風景版画会)表紙	1917(大正6)	木版・紙/ポートフォリオ
森田 恒友	『日本風景版画 第二集 会津之部』(日本風景版画会)より 若松城跡	1917(大正6)	木版・紙/ポートフォリオ
森田 恒友	『日本風景版画 第二集 会津之部』(日本風景版画会)より 阿賀川	1917(大正6)	木版・紙/ポートフォリオ
森田 恒友	『日本風景版画 第二集 会津之部』(日本風景版画会)より 松原湖畔	1917(大正6)	木版・紙/ポートフォリオ
森田 恒友	『日本風景版画 第二集 会津之部』(日本風景版画会)より 川上温泉	1917(大正6)	木版・紙/ポートフォリオ
森田 恒友	『日本風景版画 第二集 会津之部』(日本風景版画会)より 磐梯山麓小湖	1917(大正6)	木版・紙/ポートフォリオ
石井 柏亭	『日本風景版画 第一集 北陸之部』(日本風景版画会)表紙	1917(大正6)	木版・紙/ポートフォリオ
石井 柏亭	『日本風景版画 第一集 北陸之部』(日本風景版画会)より 能登字出津港	1917(大正6)	木版・紙/ポートフォリオ
前川 千帆	『書窓版画帖十連聚 其四 新野外小品』(アオイ書房)より「山峡」	1942(昭和17)	木版・紙/本
渡辺 光徳	すか川なべし橋	1925(大正14)	エッチング・紙
福田 利秋	磐梯山	1980(昭和55)	木版・紙 福田利秋氏寄贈
福田 利秋	蝶	1975(昭和50)	木版・紙 福田利秋氏寄贈
福田 利秋	茜雲	1976(昭和51)	木版・紙 福田利秋氏寄贈
岩谷 徹	赤い魚(小)	1983(昭和58)	メゾチント・紙
岩谷 徹	赤い魚(大)	1976(昭和51)	メゾチント・紙
岩谷 徹	夏の思い出	1976(昭和51)	メゾチント・紙
岩谷 徹	秋の山	1984(昭和59)	メゾチント・紙
岩谷 徹	二聖人同舟	1984(昭和59)	メゾチント・紙
安部 直人	黎明	1991(平成3)	エッチング、メゾチント・紙
安部 直人	胎芽Ⅲ	1994(平成6)	エッチング、メゾチント・紙
土橋 醇	無題(墨)	1962(昭和37)	リトグラフ・紙
土橋 醇	無題(多色)	1960(昭和35)	リトグラフ・紙
土橋 醇	無題(墨、青)		リトグラフ・紙
斎藤 清	ノートルダム、パリ	1974(昭和49)	木版・紙
斎藤 清	珊瑚	1955(昭和30)	木版・紙

展示室4-② 佐藤潤四郎のガラス

郡山市出身のガラス工芸家、佐藤潤四郎（1907-1988）は、魚や仏足跡といった鑑賞を目的としたオブジェを制作していますが、花器やタンブラーなど実用的な用途をもった作品も残っています。なかでも、『スーパーニッカ』は、「温かいガラス」「柔らかなガラス」といわれる潤四郎デザインの象徴として位置づけられます。

当館では、これまで所蔵していた『スーパーニッカ』の初号モデルのほかに、1964（昭和39）年の東京オリンピック開催を記念した、五輪マークのカラーによる特別モデルを令和2年度に収蔵しました。

オリンピックイヤーにちなみ、東京五輪1964モデルを常設展示室でお披露目します。

作者名	作品名	制作年	技法・材質	
佐藤 潤四郎	ステンドグラス・仏足跡		ガラス、鉄	佐藤久枝氏寄贈
佐藤 潤四郎	ステンドグラス・窓		ガラス、鉄	佐藤久枝氏寄贈
佐藤 潤四郎	オブジェ・羊車	1980-82(昭和55-57)頃	ガラス/宙吹・プランツ	
佐藤 潤四郎	オブジェ・これ以上芽の出ない世界	1980-82(昭和55-57)頃	ガラス/宙吹	
佐藤 潤四郎	竹に雀文ワイングラス		ガラス/宙吹・グラヴェール、プランツ	佐藤久枝氏寄贈
佐藤 潤四郎	オリンピックブルー硝子皿	1941(昭和16)頃	ガラス/宙吹	石井謙治氏寄贈
佐藤 潤四郎	手吹きウイスキーボトル『スーパーニッカ』東京五輪1964モデル・赤	1964(昭和39)頃	ガラス/宙吹	ニッカウヰスキー(株)寄贈
佐藤 潤四郎	手吹きウイスキーボトル『スーパーニッカ』東京五輪1964モデル・緑	1964(昭和39)頃	ガラス/宙吹	ニッカウヰスキー(株)寄贈
佐藤 潤四郎	手吹きウイスキーボトル『スーパーニッカ』東京五輪1964モデル・黒	1964(昭和39)頃	ガラス/宙吹	ニッカウヰスキー(株)寄贈
佐藤 潤四郎	手吹きウイスキーボトル『スーパーニッカ』東京五輪1964モデル・黄	1964(昭和39)頃	ガラス/宙吹	ニッカウヰスキー(株)寄贈
佐藤 潤四郎	手吹きウイスキーボトル『スーパーニッカ』東京五輪1964モデル・青	1964(昭和39)頃	ガラス/宙吹	ニッカウヰスキー(株)寄贈
佐藤 潤四郎	クリスタル六角鉢		ガラス/宙吹	
佐藤 潤四郎	鍛鉄吹込花器（顔）	1986(昭和61)	ガラス、鉄/鍛鉄吹込	
佐藤 潤四郎	鍛鉄吹込花器（グリーン）	1986(昭和61)	ガラス、鉄/鍛鉄吹込	
佐藤 潤四郎	魚（ブルー）	1973-76(昭和48-51)頃	ガラス/宙吹・カレット封入	
佐藤 潤四郎	魚（オレンジ）	1973-76(昭和48-51)頃	ガラス/宙吹・カレット封入	
佐藤 潤四郎	花器（カレット入り）		ガラス/宙吹・カレット封入	
佐藤 潤四郎	アイスクリーム皿		ガラス/宙吹き	大方竜子氏寄贈
佐藤 潤四郎	ウイスキーボトル「インベリアル」		ガラス/機械吹き・カット	サントリー(株)寄贈
佐藤 潤四郎	『スーパーニッカ』手吹きボトル	1962(昭和37)頃	ガラス/宙吹	川崎清氏寄贈
佐藤 潤四郎	花器（グリーン）		ガラス/宙吹	
佐藤 潤四郎	ブルー花器		ガラス/宙吹	
佐藤 潤四郎	灰皿		ガラス/型押し	
佐藤 潤四郎	花器・一寸考えて		ガラス/宙吹	

ロビー展示 彫刻・他

作者名	作品名	制作年	技法・材質
●1階			
笠置 季男	躍進	1958(昭和33)	セメント
●2階展示ロビー			
舟越 保武	少女	1956(昭和31)	砂岩
北村 四海	井冰鹿の娘	1917(大正6)	大理石
佐藤 忠良	群馬の人	1952(昭和27)	ブロンズ
堀内 正和	顔	1955(昭和30)	鉄、セメント
●前庭			
パリー・フラナガン	野兎と鐘	1988	ブロンズ